

登録橋梁基幹技能者 平成26年度試験問題

[解答作成の注意事項]

1. この試験問題は、**四肢択一式 50 問**で**全て必須**です。問題ごとに正解は1つしかありません。1問につき2つ以上解答すると、その問題の解答は無効になります。
2. 解答は、**解答用紙に記入**してください。
3. 解答用紙の所定欄に、**受講番号および氏名**を記入して下さい。
4. 解答記入は鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから新しく記入してください。

[その他の注意事項]

1. 試験係員の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
2. 「始め」の合図があったら、ただちにページ数の不足および印刷の不鮮明なところがないことを確かめて下さい。もしあったら取り替えますから、手をあげて試験係員に申し出て下さい。
3. 試験問題の内容についての質問には、お答えできません。
4. 式あるいは文章等を記憶する機能を有する計算機（例えば、ポケットコンピュータ、電子手帳等）・携帯電話機は、使用を禁止します。
5. この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから**1 時間 30 分**です。**試験開始後 1時間および終了前 10 分間は退場できません。**
6. 試験開始後 1 時間から試験終了前 10 分までの間に途中退場を希望する人は、解答用紙および試験問題用紙を机の上に裏返しにしておき、手をあげてから、試験係員の指示を得て、静かに退場して下さい。ただし 16 時 30 分から終了式を行いますので、時間になったら席についてください。
7. 「終り」の合図があったら、ただちに解答の作成をやめ、解答用紙を机の上に裏返しにし、試験係員が回収するまでそのまま待っていて下さい。試験終了後は試験問題用紙を持ち帰ってもかまいません。

受講番号 _____

- ・途中退場して試験終了後に本試験問題用紙を受取りにくる場合、あらかじめここに受講番号を記入して下さい。（自分のものであることの確認のため）

安全管理の問題

- 1) 重大災害の定義について、(ア)に当てはまる正しいものを下の①～④より選択し、その番号で答えなさい。

重大災害とは、同時に(ア)以上の労働者が業務上の死傷又は罹病した災害をいう。又、爆発・倒壊等、行政上注目すべき事故・特異な災害事故も重大災害として取り扱っている。

- ① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人

- 2) 労働災害が発生すると、事業者やその代行者に、種々の法律上の責任が生じる。責任の種類で分類すると『四重責任』と言われている。その分類として正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

解答群	① 「元請責任」	「民事責任」	「行政責任」	「社会的責任」
	② 「刑事責任」	「民間責任」	「発注責任」	「社会的責任」
	③ 「刑事責任」	「民事責任」	「行政責任」	「会社会的責任」
	④ 「刑事責任」	「民事責任」	「行政責任」	「社会的責任」

- 3) 危険予知活動「KYK」は、危険防止活動の一手法で、職場毎の全員参加による話し合いを通じて、作業に潜在する危険を見抜く能力を身につけ、安全作業の一層の徹底を図る活動である。危険予知活動の進め方に対する記述について誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 作業内容を全員に説明する(5Sでまとめて伝達する)
② 危険性または有害性の洗い出し(グループ全員に発表させる)
③ 危険性または有害性の見積り及び評価(全員で話し合って決める)
④ 危険性または有害性の除去・低減対策を立てる(グループの重点実施事項を選ぶ)

- 4) 建設現場における感電災害を起こし易い作業について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 送電線・配電線近くで行なう作業
② 移動型・可搬型の電動機器を取り扱う作業
③ アーク溶接機を取り扱う作業
④ 測量機器を取り扱う作業

- 5) 発電機の設置方法の記述について誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 斜面の場合は、堅固な地盤に設置
② 通風換気の良い場所に設置
③ 消火器の備え付け
④ 湿潤な場所、周囲に可燃物のある場所は避ける

- 6) 足場における作業において、悪天候（強風、大雨、大雪、地震）後等の点検結果・措置等を記録し、これを保存することになっている。保存する期間について正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
（安全衛生規則 第567条）

- ① 足場を使用する作業を行う仕事終了するまでの間
- ② 足場を使用する作業を行う仕事終了後、1ヶ月
- ③ 足場を使用する作業を行う仕事終了後、3ヶ月
- ④ 足場を使用する作業を行う仕事終了後、6ヶ月

- 7) 鋼橋架設等作業主任者を選任しなければならない橋梁の規模に関する記述で、アの組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

橋梁の上部構造であって、金属製の部材により構成されるものの架設、解体又は変更の業務で、高さ（ア）以上又は上部構造のうち橋梁部分の支間が（イ）以上である部分に限る ⇒ 鋼橋架設等作業主任者

- 解答群
- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 3m | イ | 20m |
| ② | ア | 5m | イ | 30m |
| ③ | ア | 10m | イ | 40m |
| ④ | ア | 15m | イ | 50m |

- 8) 安全衛生規則に基づく墜落防止措置について、ア～エの組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ・墜落の危険を防止する手すりの高さは（ア）cm以上
- ・わく組足場の場合、交さ筋かきに加え、高さ（イ）cm以上（ウ）cm以下の位置への下さんか、高さ（イ）cm以上の幅木、或いは手すり枠の設置
- ・物体の落下防止措置のため、高さ（エ）cm以上の幅木、メッシュシート又は防網（同等の措置を含む）を設置

- 解答群
- | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ① | ア- | 90 | イ- | 20 | ウ- | 45 | エ- | 15 |
| ② | ア- | 85 | イ- | 20 | ウ- | 40 | エ- | 10 |
| ③ | ア- | 85 | イ- | 15 | ウ- | 40 | エ- | 10 |
| ④ | ア- | 90 | イ- | 15 | ウ- | 45 | エ- | 10 |

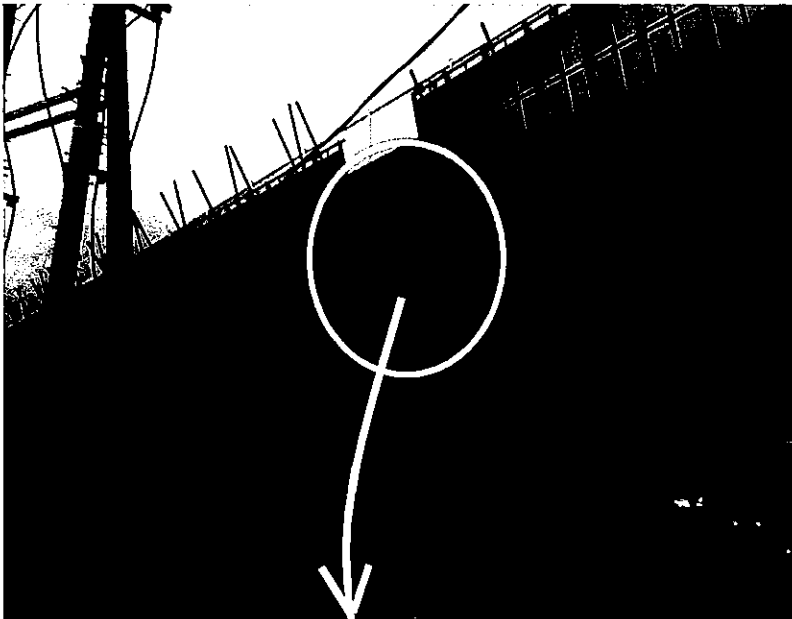
- 9) 吊り足場、張出し足場、または高さ5m以上の足場の組立・解体作業は「足場の組立等作業主任者」を選任しなければならない。足場組立等作業主任者の職務で誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
（安全衛生規則 第565条、第566条）

- ① 材料の欠点の有無を点検し不良品を取り除く
- ② 器具、工具、安全带及び保護具の機能を点検、不良品を取り除く
- ③ 作業の方法及び作業者の配置を決定し、作業状況を監視
- ④ 安全带及び保護帽の保管状況を監視

- 10) 下図の事故発生状況において、事故原因として①～④をあげているが、直接関係のないものを選択し、その番号で答えなさい。

朝顔解体作業において、橋脚直上部の朝顔を解体した後、手摺りのない橋脚上を移動しようとしてバランスを崩し、7m下の地面に墜落した。

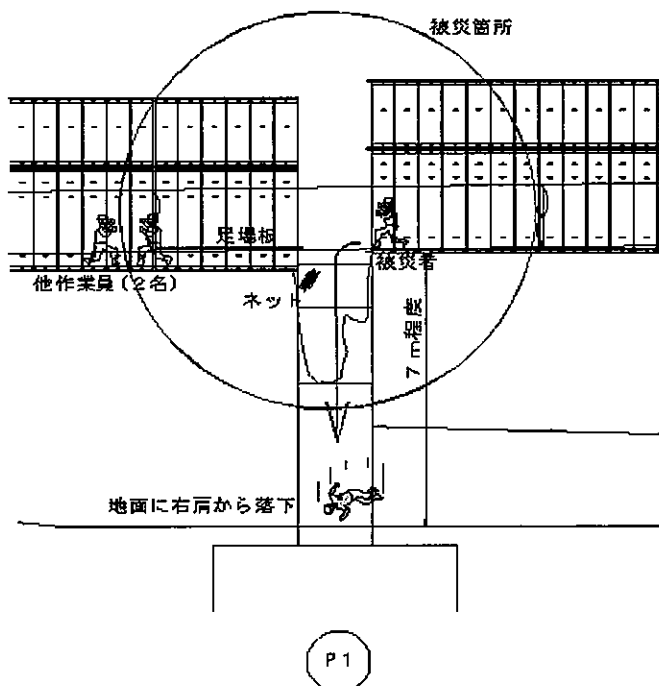
(平成24年 3月 3日 金曜日)



鳶工 32歳
経験 6年
入場 初日

肋骨骨折・
鎖骨骨折
休業日数 30日

被災状況図



事故原因

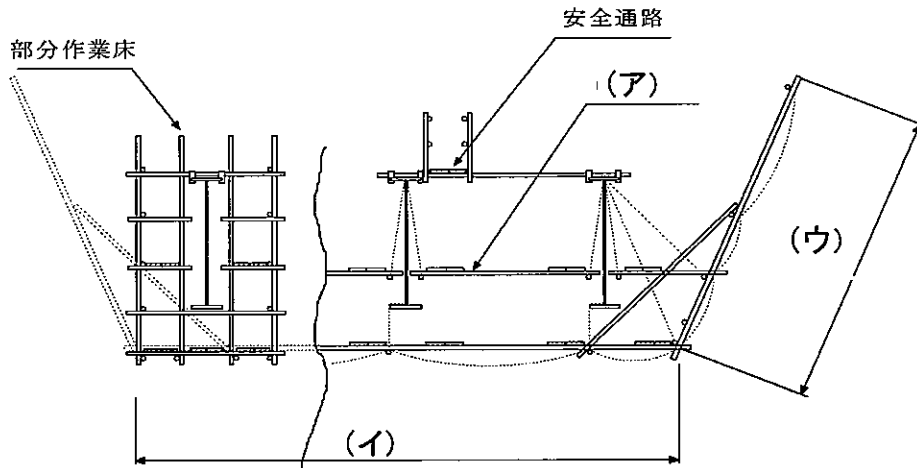
- ① 親綱が設けられていなかったため、安全帯を使用していなかった。
- ② 足場組立等作業主任者が、作業監視を怠っていた。
- ③ 被災者は、高所作業車の運転資格を有してなかった。
- ④ 被災者は、入場初日であり現場に慣れていなかった。

架設概論の問題

11) 足場の種類と用途に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 橋脚周り足場とはワイヤブリッジ設置、測量、支承据え付け作業時に、橋台・橋脚の周辺に設置される「パイプつり足場」や「張出し足場」をいう。
- ② 安全通路とは桁上を作業員が移動する場合に転落を防止する設備で、「桁架設時通路」と「桁架設後通路」に分けられる。
- ③ 部分作業床とは全面足場のほかに局所的に設置する足場をいい、継手部の作業に使用する「ジョイント足場」が代表的である。
- ④ 中段足場は鉄桁、箱桁等の桁高に限らず、桁上面と主体足場の中段に設置する必要がある。

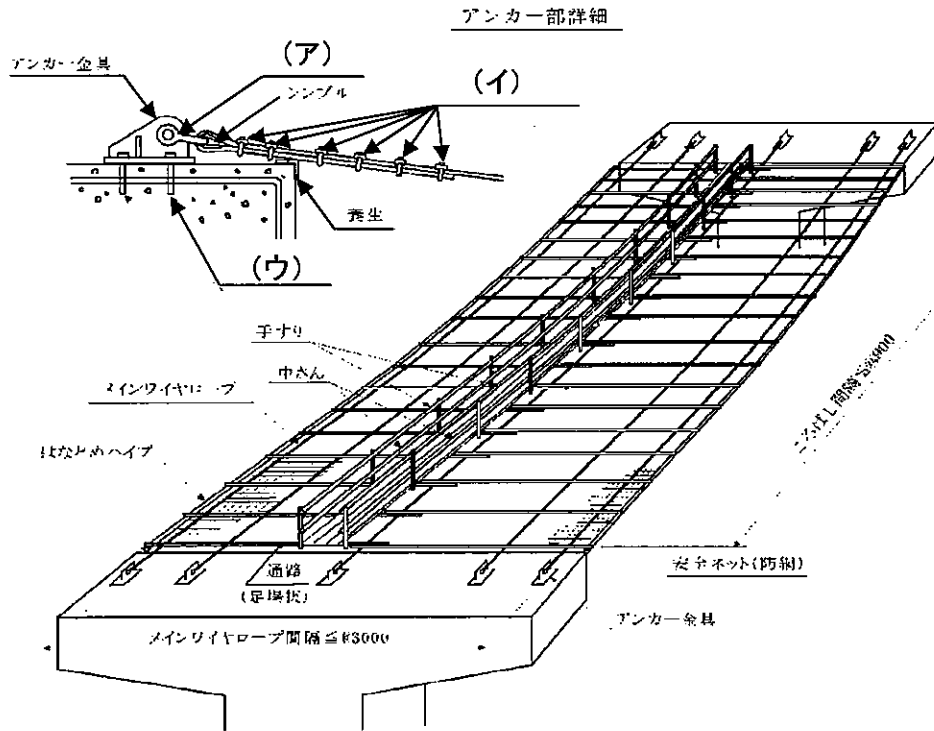
12) 下図の架設足場の名称において、ア、イ、ウに当てはまる名称で正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| ① | アー朝顔 | イー中段足場 | ウー主体足場 |
| ② | アー中段足場 | イー主体足場 | ウー朝顔 |
| ③ | アー主体足場 | イー朝顔 | ウー中段足場 |
| ④ | アー主体足場 | イー中段足場 | ウー朝顔 |

- 13) 下図のワイヤブリッジアンカー部の名称において、ア、イ、ウに当てはまる名称で正しいものを下の解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- | | | | |
|---|-----------|-----------|----------|
| ① | アー樹脂アンカー | イーワイヤグリップ | ウーシャックル |
| ② | アーワイヤグリップ | イー樹脂アンカー | ウーシャックル |
| ③ | アーシャックル | イーワイヤグリップ | ウー樹脂アンカー |
| ④ | アーワイヤグリップ | イーシャックル | ウー樹脂アンカー |

- 14) 板張り防護工について (ア) に当てはまる正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

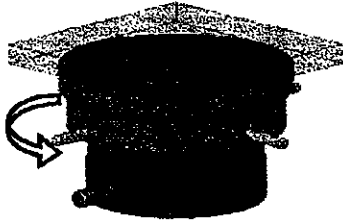
板張り防護工とは、桁下に鉄道、道路がある場合に、飛来落下による第三者災害を防止するために、主体足場、朝顔を板材で防護する設備をいう。最近では、組立・解体の容易さ、景観などを考慮して、(ア)を使用する例も多くなっている。

- ① 重量物足場
- ② パネル足場
- ③ 枠組み足場
- ④ 安全ネット

15) 油圧ジャッキの種類に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① センターホールジャッキは、ジャッキ芯が空洞になっており、ロッドを介して重量物を吊上げたり、PC鋼線や鋼棒にテンションを導入するときに使用する。
- ② クレビス付ジャッキは、ジャッキの両端にクレビスと呼ばれるピンを挿入して固定する金具が付いており、橋桁の横引き等に使用する。
- ③ キャタピラ式送出し装置は、従来ローラ支点となっていたところに代わって、キャタピラ面により、受圧面積を確保することで、桁の局部座屈による補強を軽減できる。
- ④ 支承補修用ジャッキは、支承取替時の仮受け作業に用いる。供用下での工事となるため、安全ロックといったロック機能を有している。桁下と橋脚の間に設置するため、機高を高くしてあるのが特徴である。

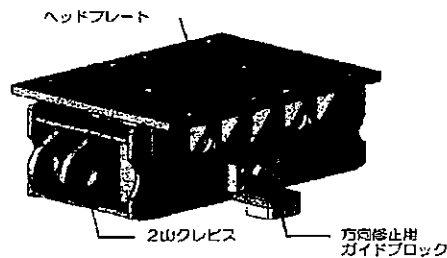
16) 下図の各種ジャッキ種類の名称において、(ア)に当てはまる名称で正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。



(支承補修用ジャッキ)



(キャタピラ式送出し装置)



(ア)

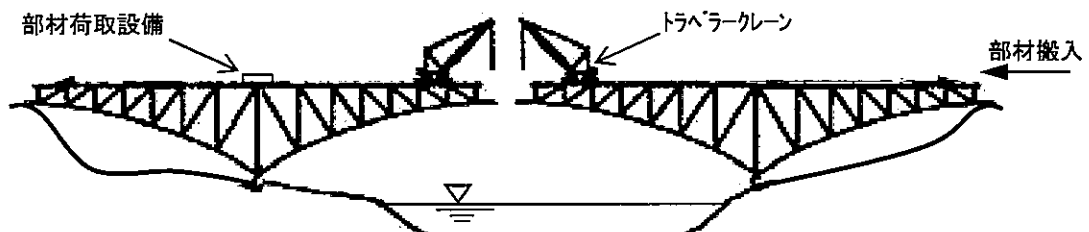
- ① 鉛直ジャッキ
- ② センターホールジャッキ
- ③ スライドジャッキ
- ④ ジャッキングホイスト

17) ケーブルエレクション工法における留意事項について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 基礎やアンカーの掘削にあたっては土砂崩壊に注意する。
- ② アンカー金具は最大張力と直角方向に正しく据付ける。
- ③ クレーン設備は定期点検を確実に実施する。
- ④ ワイヤグリップは張力が増加すると緩むため、適時点検し、必要に応じて増締めを行う。

18) トラベラクレーン (TRC) 片持ち式工法の選定条件に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 架設地点に搬入路が無く、自走クレーンの設置も不可能であること。
- ② 先行してアンカー支間を確保できること。
- ③ 橋梁本体にトラベラクレーンの設置が簡単な構造であること。
- ④ 架設位置が低く、ベント等の仮設構造物が設置できること。



19) 片持ち工法に有利な構造上の条件について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 単位質量が小さい
- ② 単材質量が小さい
- ③ 曲げ剛性・ねじり剛性が低い
- ④ アンカーが確保されている

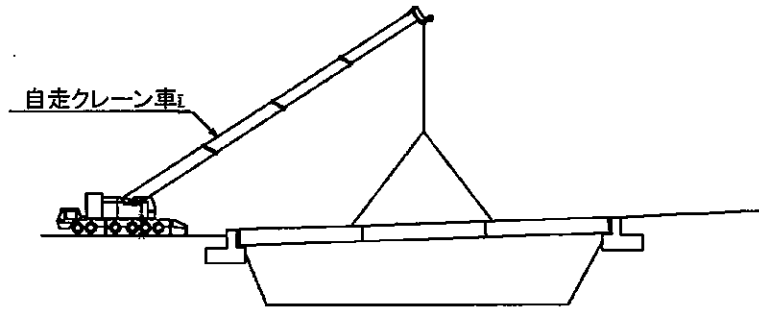
20) 片持ち式架設工法における留意点について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 片持ち支持状態での発生断面力で設計断面が決まることがある。
- ② 閉合架設となるケースでは、変形の残留・応力調整処理が可能かを確認する。
- ③ 中間支点から左右振り分けに架設するバランスキャンチレバーの場合、安定確保の面から極力偏載荷とならないように、架設クレーンや架設手順を考える必要がある。
- ④ 片持ち状態が長期間に及ぶケースであっても、あくまで面内方向の荷重であるため、風荷重や地震荷重など面外方向の作用力に対しては検討が不要である。

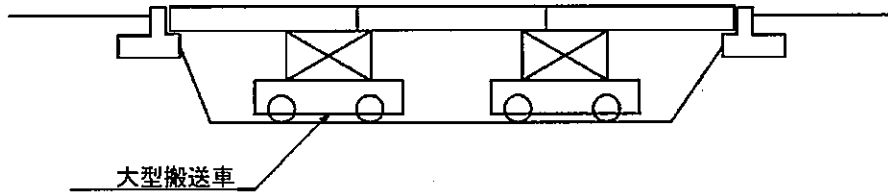
21) 次の選定条件に最もあてはまる一括架設工法を示すイメージ図を①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- 条件
1. ベント架設が不可能である。
 2. 大型クレーンの組立、据付け場所は確保出来る。
 3. クレーン据付け位置の地耐力は確保出来る。
 4. 架設位置付近に橋体の地組ヤードを確保出来る。
 5. 桁下に重機が進入できない。

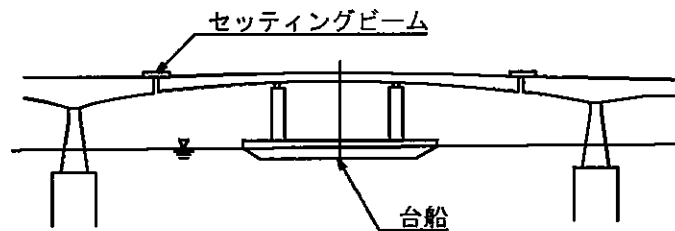
① 自走式クレーン（TC, CC）による一括架設工法



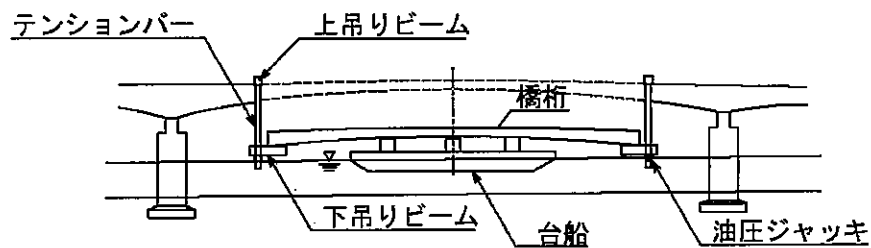
② 大型搬送車による一括架設工法



③ 台船による一括架設工法



④ 吊り上げ装置による一括架設工法



- 22) 遵守法令における届け出先について、ア、イに当てはまる答えの組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

項目	関係法令	内容	申請限度
施工計画書 → (ア) への届け出	労働安全衛生法88条 労働安全衛生規則90条	・ 工事計画書 市街地工事：支間30m以上 山岳地工事：支間50m以上 地山掘削（深さ10m以上）	作業開始 14日前
建設物、機械等設置届 → (イ) への届け出	労働安全衛生法88条 労働安全衛生規則87条	・ 吊足場、枠組み足場 （高さ10m以上） （組立～解体の期間60日以上）	作業開始 30日前

解答群

- ① アー労働大臣 イー労働基準監督署
- ② アー労働大臣 イー労働大臣
- ③ アー労働基準監督署 イー労働大臣
- ④ アー労働基準監督署 イー労働基準監督署
- 23) 鉋桁一本を吊上げ架設するときは、横倒れ座屈に留意する必要がある。
横倒れ座屈の判定基準として、ア、イ に当てはまる答えの組み合わせで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

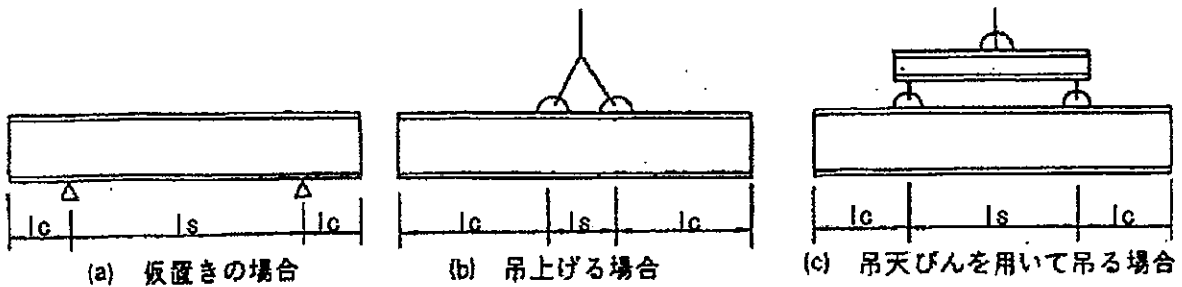
解答群

中間部： $l_s / b_u \leq$ (ア)

片持部： $l_c / b_l \leq$ (イ)

ここに b_u : 上フランジ最小幅
 b_l : 下フランジ最小幅
 l_s, l_c : 下図に示す支持間隔

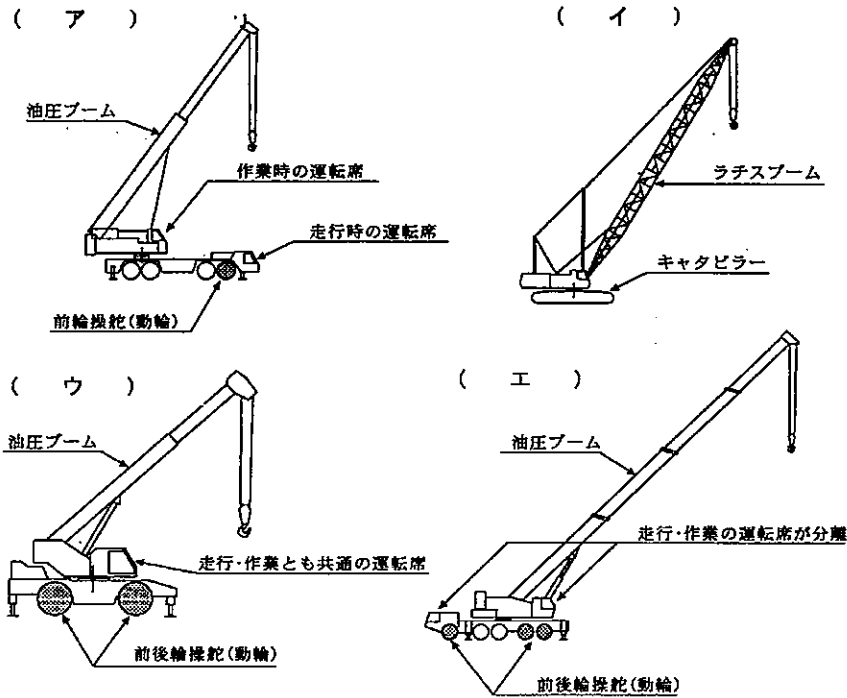
	(ア)	(イ)
①	70	35
②	70	70
③	35	70
④	35	35



- 24) ベント工法における留意事項について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 地耐力が均等に得られるように整地する。
- ② ベント基礎形式は接地圧に関わらず鋼板基礎とする。
- ③ 建方途中は支柱、控え索等で転倒防止を行う。
- ④ 長尺ベントは曲げ座屈しないよう検討する。

25) 以下のクレーン名称に当てはまる組み合わせで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

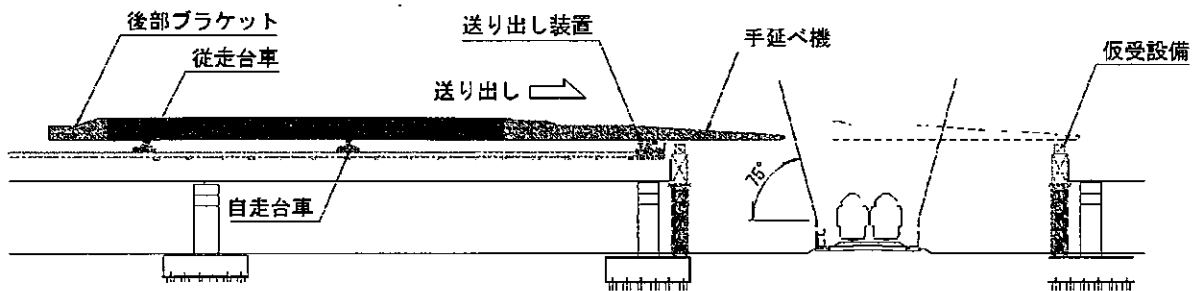
- | | | |
|---|----------------------------------|-----------------------------------|
| ① | ア - オールテレンクレーン
ウ - ラフテレンクレーン | イ - クローラクレーン
エ - 油圧式トラッククレーン |
| ② | ア - ラフテレンクレーン
ウ - オールテレンクレーン | イ - クローラクレーン
エ - 油圧式トラッククレーン |
| ③ | ア - 油圧式トラッククレーン
ウ - ラフテレンクレーン | イ - クローラクレーン
エ - オールテレンクレーン |
| ④ | ア - クローラクレーン
ウ - ラフテレンクレーン | イ - 油圧式トラッククレーン
エ - オールテレンクレーン |

26) 相吊りは「原則として禁止」の事項であるが、やむを得ず相吊り架設を行う場合に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 作業指揮者の直接指揮のもとに施工する。
- ② 相吊り架設に使用する移動式クレーンの定格荷重は、設計吊荷重の1.25倍以上の余裕を見込む。
- ③ 吊り部材の重心位置を確認して設計吊荷重を求める。
- ④ 相吊りと吊り走行の組み合わせで架設することは、やむを得ない場合は施工できる。

27) 手延べ式送出し工法の選定条件に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 桁下空間の架設地点への重機進入が不可能であること。
- ② 架橋位置の延長隣接箇所に地組ヤードの確保が不可能であること。
- ③ 手延べ機解体場所の確保が可能であること。
- ④ 架設系における桁補強が工場製作にて可能であること。



28) 送出し工法での留意点について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 台車・送出し設備の状態確認の通路を設置する。
- ② 作業中止時は、桁移動・転倒の防止措置を各支点で行う。
- ③ 自走台車は桁組立前に試運転を行う。
- ④ 送出し設備は鉛直力のみに対応できるように考慮する。

29) 直接水準測量は、水平視準線より2点A, Bに立てた標尺を視準してその読みを
a (1.8m), b (1.0m) とすれば2点A, B間の高低差は

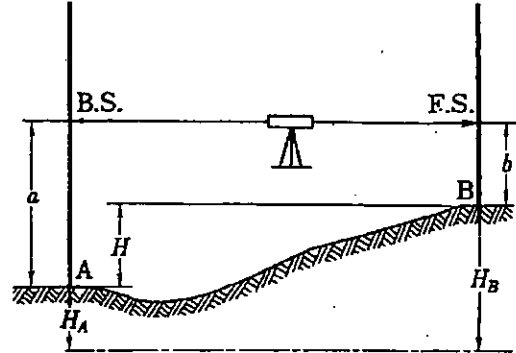
$$H = a - b = 1.8 - 1.0 = 0.8 \quad \text{となる。}$$

もし、点Aの地盤高さ H_A (3.00m) とすれば、点Bの地盤高さ H_B は次の式で求められ

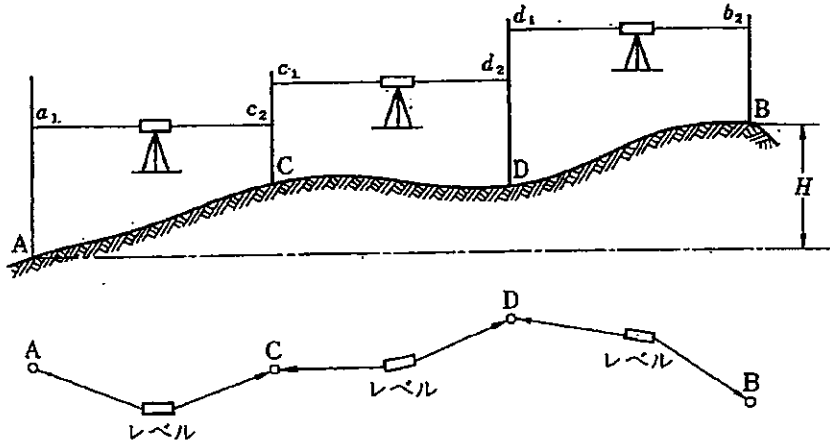
$$\begin{aligned} H_B &= H_A + a - b \\ &= 3.0 + 0.8 \\ &= 3.8 \text{ m} \quad \text{となる。} \end{aligned}$$

では、下の図において

点Aの地盤高さ	3.8 m
レベルの読み値	a 1 : 1.8 m
	c 2 : 1.0 m
	c 1 : 1.5 m
	d 2 : 2.0 m
	d 1 : 2.2 m
	b 2 : 1.2 m



の時、点Bの地盤高さはいくらになるか①~④より選択し、その番号で答えなさい。



- ① 4.1 m
- ② 4.6 m
- ③ 5.1 m
- ④ 6.3 m

30) 支間測量に関する記述で、次のア~ウに該当する言葉の正しい組み合わせを解答群①~④より選択し、その番号で答えなさい。

支間測量には、間接測量と直接測量がある。間接測量は(ア)を利用するが、角度の読みによる誤差をできるだけ少なくするよう努める。

直接測量には、鋼製巻尺を使用する方法と光波測距儀を使用する方法がある。鋼製巻尺で直接測量する場合、サグ補正、(イ)、張力補正、傾斜補正などを行う必要がある。また、光波測距儀を用いる場合には、必ず基線を用いて(ウ)を行い、精度の確認を行うことが必要である。

解答群

- | | | |
|---------|--------|--------|
| ① ア-対角法 | イ-湿度補正 | ウ-操作練習 |
| ② ア-三角法 | イ-温度補正 | ウ-機械調整 |
| ③ ア-三角法 | イ-湿度補正 | ウ-操作練習 |
| ④ ア-対角法 | イ-温度補正 | ウ-機械調整 |

鋼橋の新しい現場施工に関する問題

- 31) 安全設備先行型ベント工法は、足場・昇降階段・手摺を地上で先行設置できる構造とし、ベント組立解体時の墜落災害の防止を目的とした工法である。

この工法の効果としての記述で誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 障害物なしで昇降が可能である。
- ② 高所作業が減少する。
- ③ 安全帯を使用しないで施工が可能である。
- ④ 作業効率が向上する。

工程計画・作業手順の問題

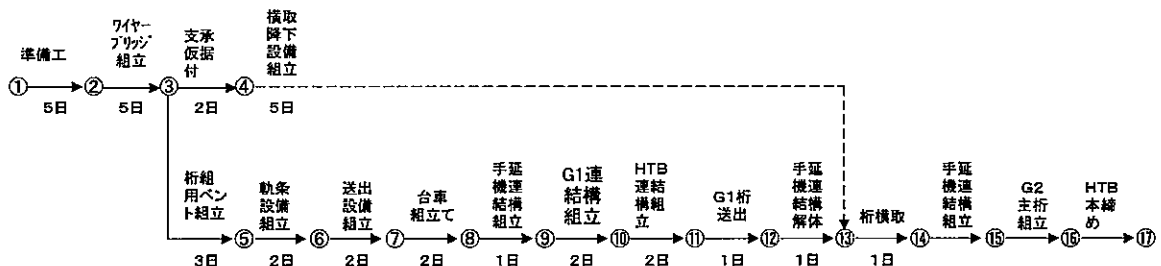
- 32) 工程計画について、() に当てはまる語句で正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

工程計画の直接的目的は工期の確保であるが、工事の進め方である工法、(ア)、機材の日程を決める計画であるので、工事の安全、(イ)、コストがこれによって決まると言える。

解答群

- | | ア | イ |
|---|------|-----|
| ① | 人員 | 品質 |
| ② | 作業時間 | 出来形 |
| ③ | 人員 | 出来形 |
| ④ | 作業時間 | 品質 |

- 33) 工程管理には定量的・客観的な検討・実施の指標として工程図表が使用される。工程表には、バーチャート式、グラフ式およびネットワーク式の3種類があるが、下図ネットワーク式工程表の特徴の記述で正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。



- ① 作業に要する日数が分かりやすい
- ② 作業の手順関係が明確に示せる
- ③ 作業の進捗度が明確に示せる
- ④ 作業に必要な人数を工種別に把握できる

- 34) 工程管理の経済速度についての記述で（ ）に当てはまる語句で正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

一定の条件下ならば、それぞれの工程で無理のない範囲での（ ）工程で施工することと、工程間や設備・人員に遊びを作らないよう計画することが経済速度であると言える。

- ① 最遅
- ② 最長
- ③ 最大
- ④ 最短

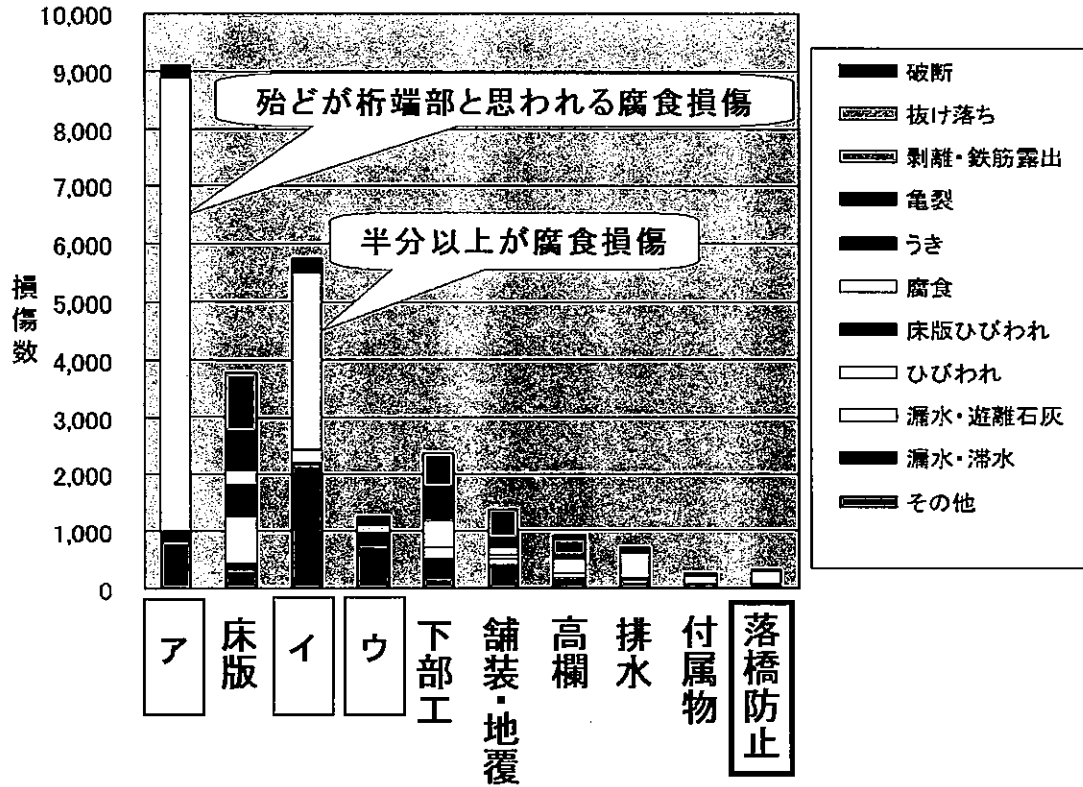
- 35) 安全作業について（ ）に当てはまる語句で正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

不安全な行動をなくすためには、正しい作業のやり方を定め、作業者に教育しこれを守らせることが必要である。この正しいやり方を示すものが（ ）である。

- ① 作業方法
- ② 対象作業
- ③ 工程計画
- ④ 作業手順

維持・補修の問題

36) 鋼橋の箇所別損傷数のうち、ア、イ、ウ に当てはまる組合わせで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

	ア	イ	ウ
①	主桁	伸縮装置	支承
②	主桁	支承	伸縮装置
③	支承	主桁	伸縮装置
④	伸縮装置	主桁	支承

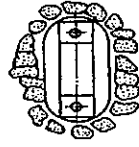
37) 橋梁の維持管理について (ア) に当てはまる数字で正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

20年後には、建設後50年以上の橋梁が約 (ア) %となる。

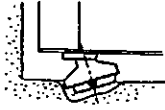
- ① 20
- ② 30
- ③ 50
- ④ 70

- 38) 鋼構造物の変状のうち、「支承の損傷」の損傷事例説明について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

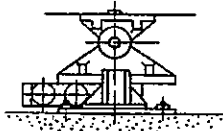
① 支承モルタル損傷



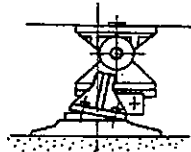
② 支承転倒



③ アンカーボルトの破損



④ サイドブロックおよび
取り付けボルトの破損



- 39) 「補修・補強」に伴うジャッキ作業について、以下の（ア）に当てはまる記述として正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

橋梁上部工を上下に移動させるジャッキ作業では、本来の支承位置以外に一時的に仮支持点を設け、上部工の荷重を受け止め、下部工に伝達する方法が採られる。

この仮支持点は、（ア）で支持するのが望ましい。

- ① 支点から支間中央側に離れた位置
- ② 支点付近
- ③ 支点から桁端側に離れた位置
- ④ 端横桁

- 40) 「鋼床版疲労亀裂」の発生要因について、以下のア、イに当てはまる組合わせて正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

疲労亀裂は鋼床版の局部変形により、（ア）箇所の（イ）が疲労亀裂を発生させる。

解答群

- | | ア | イ |
|---|-------|------|
| ① | ボルト接合 | 振動 |
| ② | ボルト接合 | 局部応力 |
| ③ | 溶接不良 | 局部応力 |
| ④ | 溶接不良 | 振動 |

共通テキスト問題

- 41) 登録基幹技能者の役割について、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 現場の施工実績に精通し、現場における作業管理・調整能力を有する。
 - ② 現場の実態と状況に応じた、施工方法の提案、調整を行う。
 - ③ 現場で技能者の配置を行う目的は、安全第一である。
 - ④ 現場の作業を効率的に行うために人の配置と作業方法、作業手順を作成する。
- 42) 登録基幹技能者に求められる能力について、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 一般の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力を有する。
 - ② 出来上りの点検と工事の是正ができる。
 - ③ 技術者の示す施工計画等に対しては、自身の経験と勘だけで提案する。
 - ④ 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するため、技術者や他の職長との調整能力を有する。
- 43) 登録基幹技能者に求められる能力に関する、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 原価管理に係る基本的な知識を有し、常に下請意識をもって行動することができる。
 - ② 対象物にまつわる諸条件を的確に捉え、客観的な観点から、結論を導き出すことができる。
 - ③ 工事の実情に即した作業手順書の作成ができる。
 - ④ 相手の立場や状況を理解する気持ちの余裕をもつことができる。
- 44) 登録基幹技能者に求められるOJTの「指導方法」に関する、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 指導の仕方と仕事の与え方とは深い関係がある。
 - ② 指導の仕方次第では、仕事の能率や部下の成長に微妙な違いが生ずる。
 - ③ 指導で大切なことは、指示どおり徹底してやらせることである。
 - ④ 指導では、自分本位ではないお客さま本位の仕事の重要性とその理由を説明する。

45) 施工管理とその目的に関する次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 施工計画を立て、目的物を決められた予算内と工期内に要求される品質や形状のものが築造されるように管理することをいう。
- ② 施工管理を行うには、その前提として一定の社会的制約条件の枠組みの中で実施することが要求される。
- ③ 施工管理とは、施工のための施工手段（5M）を用いて、建設工事の施工に関する管理を総称したものであり、所期の目標を達成することである。
- ④ 社会的制約に基づく監理とは出来形管理、工程管理、環境保全管理、その他の管理、をさす。

46) 施工に当たって工程、原価、品質の一般的関係に関する、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 工程と原価の関係では、施工を速めて施工数量を多くすると単位数量あたり原価は安くなっていくが、さらに施工を速めて突貫作業をすると逆に原価は高くなる。
- ② 原価と品質の関係では悪い品質のものは安く出来るが、良い品質のものは原価が高くなる。
- ③ 品質と工程の関係では品質の良いものは一般に時間が早まり施工速度は速くなり、さらに施工を速めて突貫作業をするとその分品質は良くなる。
- ④ 工程、原価、品質との間には相互に関連する性質があるので、これらの調整を図りながら施工計画し、管理することが必要である。

47) 施工計画のための事前調査の必要性に関する、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 事前調査には、契約条件と現場条件の検討があり、施工計画や工事価格の見積等を適正にして工事を成功に導く。
- ② 工事の失敗と成功の分岐点は事前調査による問題点を十分検討し、工事にどう反映させるかで決まる。
- ③ 事前調査のうち契約条件の検討では、設計図書だけにより、建設目的物の工事内容を理解することにより、事前調査は必要ない。
- ④ 現場条件の事前調査では、複数の者が行うとか、回数を重ねて調査することにより、個人的な視点の片寄りをなくし、正確に、詳細に、もれなく調査ができて良い結果を生ずる。

48) 外観にて判明する資材以外は荷ほどきして検収を行うが、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 購入依頼した内容と納品書等の内容が一致しているか。
- ② 納品書の内容と搬入された資材の仕様の相違や数量の不足がないか。
- ③ 付属品や予備品は本体とは別の宅配便として送られてくるのが一般的であるので、荷ほどき検収は行わない。
- ④ 過不足や不良品があった場合、速やかにメーカーまたは代理店に連絡指示を行う。

49) 建設業法令遵守ガイドラインのうち【不当に低い請負代金及び指値発注（建設業法第18条、第19条第1項、第19条の3、第20条第3項）】に関する、次の記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 元請負人が、下請負人に自らが提示した積算根拠を明らかにして、十分協議を行うことにより、下請契約を締結した。
- ② 元請負人が契約額を提示する場合には、自らが提示した額より低い額の積算根拠を明らかにして下請契約を締結する。
- ③ 元請負人及び下請負人が追加工事等に関する協議が円滑に行えるよう、下請工事の当初契約において書面により具体的に定めた。
- ④ 元請負人が、工事の予定価格に応じて一定の見積り期間を設けて下請け契約を締結した。

50) 労働安全衛生規則に関する、つぎの記述のうち最も不適切なものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 事業者は、高所作業車を用いて作業を行うときは、乗車席及び作業床以外の箇所に労働者を乗せてはならない。
- ② 事業者は、高所作業車を用いて作業を行うときは、作業指揮者を定め、その者に作業計画に基づき作業の指揮を行わせる。
- ③ 事業者は、高所作業車については、作業能力に余裕があれば制限荷重その他の能力を超えての使用は許される。
- ④ 事業者は、ブーム式高所作業車を用いて作業を行うときは、当該高所作業車の作業床上の労働者に安全帯等を使用させなければならない。

受講番号

採点欄

※この欄には記入しないでください

登録橋梁基幹技能者講習 平成26年度試験問題の解答用紙

安全管理の問題

問題	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)
解答	③	④	①	④	①	①	②	③	④	③

架設概論の問題

問題	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)
解答	④	②	③	②	④	③	②	④	③	④

問題	21)	22)	23)	24)	25)	26)	27)	28)	29)	30)
解答	①	④	①	②	③	④	②	④	③	②

鋼橋の新しい現場施工に関する問題、工程計画・作業手順の問題、維持・補修の問題

問題	31)	32)	33)	34)	35)	36)	37)	38)	39)	40)
解答	③	①	②	④	④	②	③	③	②	③

共通テキスト問題

問題	41)	42)	43)	44)	45)	46)	47)	48)	49)	50)
解答	③	③	①	③	④	③	③	③	②	③